



# 学校だより

令和5年9月29日  
横浜市立仏向小学校  
10月号

## 自分のからだで心で感じる体験を

副校長 笠原 丈史

最近では、様々なものがデジタル化されて、音楽などもデジタル音源のものを聞くことが多くなっています。コロナ禍の学校では、声を出して歌ったり吹奏楽器を演奏したりすることが大きく制限され、ましてや学年や全校の児童が集まって行う音楽集会・音楽会といったものは行われなくなっていました。また、ICT機器の活用の促進に伴って、様々な活動がモニター越しで行われることも多くなってきました。

以前の勤務校で、水族館に出掛けたとき出来事です。せっかく目の前の“生”の様子が見られるのに、なぜだか子どもたちのほとんどがタブレットを手にして構えて、水槽やショーの生き物たちの様子を画面越しに見ている姿がありました。学習の記録や振り返りに活用するためには役に立ちますが、どれだけ記憶に、そして心に残るのかなあ・・・と。自分の目で見て、耳で聞いて、体で感じて、心に残る体験をしてほしいと思い、子どもたちには「タブレットを通してではなくて、自分の目で見ようよ」と声を掛けたことを覚えています。

さて、9月22日（金）に、みなとみらいホールで開催された「心の教育 ふれあいコンサート」に5年生が出掛けてきました。このコンサートは、子どもたちの音楽に対する感性を磨くこと、心豊かに生きていこうとする資質や能力を育むことなどを目的に、横浜市教育委員会の主催で平成10年度から開催されているものです。オーケストラの演奏を“生”で聞くことができる貴重な



機会です。今回のふれあいコンサートでは、子どもたちが自分の目と、耳と、からだ全体と心で、オーケストラの演奏を聴く(感じる)体験ができたのではないかと思います。

このほかにも、学校での芸術鑑賞会、6年生対象の「心の劇場」（小学校校長会主催）などの企画もあります。また、年明けには区児童音楽会（3年生参加）や市や区の図画工作・美術・書道作品展も開催されます。学校でも、ここ3～4年実施していなかった音楽発表会を行おうと、音楽担当の先生方を中心に検討しています（詳細は、改めてお知らせします）。

様々な体験、それらを自分のからだで心でしっかりと感じる体験にしてほしいと思います。